

S. M. ヒルバーン教授記念号刊行によせて

S. M. ヒルバーン先生は、今年度末を以て関西学院大学を御退職、米国にお帰りになることとなった。

先生は1923年に宣教師として来日されたが、1930年からは関西学院に教授として奉仕され、英文学および英文学史・宗教学・インド哲学を講ぜられたが、第二次世界大戦という不幸な事件により1941年に帰国された。戦後1953年再び来日され青山学院に勤められたが、1956年再び関西学院に来ていただき文学部教授として社会史を講ぜられ、1960年社会学部設置と共に社会学部教授として引続き社会史を担当された。1964年からは大学院社会学研究科指導教授として学生を指導された。

この間、学生はアサ・ヒルバン先生としてお慕いしたし、先生の学外の活動によって救われた者も多いのであって、先生の御帰国を惜しむ者は学内外に多い。

最近では日本の農村の近代化を進めねばならないという趣旨で、大学と農村社会とを結びそこに宣教の場をも設立されようとして、千刈の地に農村センターを確立することに努力されたが、これは先生の日本における最後の大きな活動であった。

先生の御退職にあたり社会学部の一同は日頃の研究の成果を集めて記念号を刊行し、先生に捧げる次第である。

御帰国になっても御健勝で学問と宣教の活動を続けられ、関西学院を忘れずにその発展を祈っていたきたいと思います。

永い間、日本のためにまた関西学院のために御努力下さったことに対し、敬意を表すると共に深く感謝を捧げたい。

昭和41年1月22日

関西学院大学社会学部長

余 田 博 通